

# 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会

(平成23年度第2回)

## 議事録

2011年7月12日(火)開催

時間	15:00~17:00	場所	地盤工学会会議室
桑野委員長		末岡オフザ-ハ-	工藤委員兼幹事
浅田委員		岩瀬委員	杉本委員
山口委員		野崎(オブザーバ参加)	

:出席 x:欠席 :未定

議事録担当者の選出

桑野(23-1) 工藤(23-2) 浅田 岩瀬 杉本 山口

前回議事録の確認

【別紙-1】pp.1-2

【議題】

【報告事項】

1. 会員・支部の動き(桑野委員長) 【別紙-2】pp.3-19
  - ・ 各支部の運営状況、ならびに、支部活動の活性化に向けた現状/課題および各支部の取り組みについて報告があった。ユニークな活動として、研究発表会と同時に1泊2日の見学会を実施し、会員同士の交流に努めている四国支部の活動について紹介があった。
  - ・ ダイバーシティ促進のための会費減免措置について実施状況の報告があった。現在までに、69名の申し込みがあったとのこと。
  - ・ 会員数推移につき、震災以降、4、5月の学生会員数が例年に比べ伸びがある。液状化をはじめとする地盤工学分野への関心が高くなっていると考えられる。また女性、若手会員は前年度より増加傾向あり。各種取り組みの効果が現れ始めた可能性がある。
2. 神戸大会特別セッション報告と今後の作業予定(浅田委員、工藤委員) 【別紙 3】pp.20-23
  - ・ 今後の予定は以下の通り。
    - 学会誌報告の執筆(桑野委員長)
    - 来年度に向けたマニュアル作成(工藤委員)
    - アンケート集計(浅田委員)。
  - ・ 来年度に向けた工夫として、支部と連携し、コンテンツへの協力やロールモデルの紹介を依頼するという手もある。その場合、例年より早めに準備して支部に連絡を取る必要がある。タイミング的には、セッション開催アンケート実施段階が妥当。年が変わったら、具体的に検討を始める。
  - ・ 集客、広報にサポーターに協力していただくという手もある。
  - ・ プログラム割りについて、集客度合いの高いセッションと重ならないようにしたい。サロン・土・カフェWの後という流れは継続したい。
  - ・ 地元の新聞や市の広報に掲載をお願いするなど、広報の工夫が必要である。
  - ・ 当セッションは一般公開セッションのため、来年度のアンケートには、[会員][非会員]という選択肢を設ける。
3. 神戸大会女性会員カフェ報告と今後の作業予定(杉本委員) 【別紙 4】pp.24-25
  - ・ 参加者は19名。アンケート結果をみると好評であり、継続を望む声が多い。20~30人位までならキャパシティ的に可能であろう。来年度も男性参加を可とする。
  - ・ 当日参加の方が何名かいたため、当日参加枠を設ける、人数の増減に対応できる菓子にする

等の工夫が必要である。

- ・ HP を見て単独で応募という人は少ないと思われる。口コミがメインと考えられる。今回は twitter を見て参加したという人もいたため、若手宛のアピール方法として積極的な利用を考える。サポーターに現地での広報をお願いするという手もある。

#### 4. 神戸大会託児所報告(杉本委員)

【別紙 4】pp.24-25

- ・ 利用者を増やすための広報の工夫が必要である。
- ・ 来年度の開催にあたり、料金、実施体制等につき、委員会から実行委に問い合わせし、必要であればサポートする。

#### 【審議事項】

#### 1. 夏の学校について(工藤委員、杉本委員、山口委員)

【別紙 5】pp.26-29

- ・ 8/18 開催。参加予定は、桑野委員長、浅田委員、山口委員、工藤委員。
- ・ 例年は土木学会と共催で一つのブースを使用。今年度の形態につき、土木学会に確認する(工藤委員)。
- ・ 液状化等につき資料を用意する。仕組みだけでなく液状化しやすい場所や地域についても言及する。エッキー用意(杉本委員)、配布資料作成(山口委員)、液状化実験装置問い合わせ(工藤委員)。その他、地盤工学会紹介資料等を用意する(H P からダウンロード)。

#### 2. 土木学会の出版企画について(工藤委員)

- ・ キックオフミーティングは 7/20。工藤委員と野崎委員候補が出席の予定。
- ・ もう 1 名の男性委員については、天野副会長に相談する。

#### 3. サポーター対応について(桑野委員長、浅田委員)

- ・ サポーターエントリーOKの方が増えた。早急に規約を作成する必要がある。
- ・ カフェとセッションのアンケートでアドレスを記載してくれた方々については、サポーターに本登録する前に、ML 内での氏名公表等につき了承をとる。
- ・ 本委員会の議事録をサポーターに送付する。セッション報告、カフェ報告等は、個人名を削除するなど、公開版を作成し、送付する。
- ・ ファイル共有スペースを設けることが可能か、リサーチする(浅田委員)。

#### 4. その他

- ・ シニア座談会は、9 月下旬～10 月初旬に開催予定。参考までに、関東支部の支部発表会で山梨県の建設会社とシニアメンバーでパネルディスカッションを行う可能性がある。
- ・ 男女共同参画学協会連絡会の第三次大規模アンケート WG(A3WG)の参加は見送る。
- ・ 特別セッションで意見のあった「若手・学生会員による出前授業」について、“先生”として講義を行うのは、キャリアとしても有意義なものとなるため、WG をつくり、地盤に関する絵本を作成するなど、出前授業をサポートする題材と仕組みを考えてみるのはいかがでしょうかという意見がでた。

#### 5. 次回開催日の確認

- ・ 今後の開催日程(案)：  
9月15日(木)  
11月24日(木)  
1月18日(水)  
3月15日(木)  
(いずれも 15:00～17:00)

第 46 回地盤工学会研究発表会 ダイバーシティ特別セッション開催報告
-------------------------------------

## 1. 各講演内容(主に ppt 記載以外)のメモ

### (1) 京都大学における活動の紹介(犬塚 典子氏)

- ・ 京都大学女性研究者支援センターの取り組みを紹介。
- ・ 教員、研究者における女性比率は 9.2%。主要大学の間では 74 番目。旧帝大系は下位を争っている状況で、文科省からお叱りを受けている。
- ・ 文科省の振興調整費で「女性研究者養成システム改革加速」事業が採択され、引き続き資金提供を受けている。
- ・ 女性研究者支援センターは 4 名で運営。事業内容としては 6 つの WG。
- ・ 柔軟な就労形態への支援事業を実施するよう国から要請があり、文科省の「女性研究者支援モデル育成」事業終了後も、内部資金を充当して行っている。男性や文系の方々にも充当している。
- ・ 育児休暇取得者は年々増加している。
- ・ 実施例
  - 男性研究者対象の「男性学」という講義
  - 病児保育：感染室も設け、感染児も受け入れられているのが特徴
  - 女性研究者支援に関する合同シンポの実施

### (2) 育児と仕事の両立に関する話題提供(佐藤厚子氏)

- ・ 育児と仕事はあまり両立していないかもしれない。
- ・ 1990 年頃、長男が生まれた頃から仕事が楽しくなった。
- ・ ずっと同じ職場におり、家族で子育てができたので、30 年ものあいだ仕事を続けることができた。ちなみに祖父母の育児援助は受けていない。
- ・ 当初は、自宅から保育園や職場に通うのに 1 時間かかっていた。この頃は、仕事はほとんどしていなかった(できなかった)。
- ・ 引越し後は、送り迎え等を分担できるようになった。仕事はできることをやるという感じ。
- ・ 小学校から学童に通わせた。一人で帰ってくるのは楽だったが、一人の時間が生じると、鍵を預けることが不安であった。
- ・ 最近の私は、KTO、土木技術者女性の会、K、PTA 等、公私ともに、いろいろな活動をしている。
- ・ 最近、子育てをしていて良かったと思うことは 2 つ。
  - 会社と女子高生(娘のチーム)でソフトボールの試合
  - 札幌ドーム 10 周年記念で、娘達と 6 時間を走りきった。
- ・ まわりをお願いしたいこと。「くやしい」と思う気持ちがある。子育て中だからといって、変に気を使わないでもらいたい。いろいろな人がいるから、まずは本人に確認してもらいたい。

### (3) 男性育児休暇取得者からの話題提供(雨嶋克憲氏)

- ・ 2ヶ月間の育児休暇。パソコンでは初めて。2番目の取得者もでていない。
- ・ 妻も同じ職場。5月に一緒に大阪に転勤。グループは違うが同じ部署。出張、残業が多い。長女は5歳、長男は2歳。
- ・ 11、12月の2ヶ月間(長女が5~6ヶ月のとき)に育児休暇を取った。業務多忙の折、年度末まで取得するハラはくれなかった。
- ・ 妻が産休終了後の早期復帰を望んでいた。保育園はかわいそうというのもあり、少しでも一緒にいたかったので取得を考えた。
- ・ まずは、一緒に仕事をしている後輩に相談。次に上司。徐々に話をする人を増やして根回しをした。
- ・ リスク分散できる業務体制を構築するのが重要と感じた。
- ・ 休暇中は1日があつという間だった。今おもえば、良い時間だった。
- ・ 復帰後は、優先順位をつけて作業を考えるとというクセがついたように思う。
- ・ 復帰後は特別扱いされることもなく、普通に仕事ができていると思う。
- ・ 生活パターンが朝型になった。現在は、始発で会社に行くことも。
- ・ 現在、気をつけていることとしては、
  - 業務に3人以上関与してもらい「自分にしかわからないこと」を減らすよう努力。集中して作業している。
  - お客に育児中であるという自分の状況を伝える。
- ・ 家で仕事はできない。子供を寝かしつけていると一緒に寝てしまう。
- ・ 育児がしにくいと感じている。同じような立場の人がふえてほしい。

### (4) 聴衆を含めた討議

Q1.(高専関係者)：女子学生は増えている。でも女性教員が少ない。学生からの相談が自分ひとりにきて、抱えることがふえてきている。小さい機関で男女共同参画を実現しようと思った場合に、できることは何か？

A1-1.：小規模な機関はアドバンテージがあるように思う。女性技術者女性の会のような学外のネットワークや facebook 等に情報登録して仲間を増やしてはどうか？

A1-2.：作業所単位でみると、大規模機関でも女性人数は少ない。サポーターへの登録等、ネットワークを別途作ることが必要。

A1-3.：私が勤務する高専は女子学生は17%。女性教員は1名。最低限の女性先生がいないといろいろなことに対応できない。アファーマティブアクションで、ある程度、女性教員を増やさないといけないと思っている。

Q2.(工業大学関係者)：文科省からいわれて「支援室」をつくった。普通の先生方の意識としては「逆差別」という雰囲気。そもそも女性教員を公募しても、我々の大学には人がこない。非常に小さな地方都市というロケーションに問題があるのかもしれない。

Q3.(大学関係者)：学会のダイバーシティがよくわからない。母集団を増やす必要がある。

女子学生に小中学校に出向いてもらって出前講座をやってもらうのはどうか。  
学生にはインセンティブとして講演料を出す。「話す」という経験を積むのは、女子学生のキャリアパスを考える上でも良いのでは？

A3-1：次の世代のロールモデルとして活躍してもらおうというのは良いことだと思う。

A3-2：それ以前の問題として、女子学生が大学院に行ってくれない。20%の女子学生に対して、院は1人しかいない。女子学生は大学院にいかないからといって敬遠する先生もいる。みんな市とかに就職してしまう。院生にならないのが、原因としてあるのでは？

A3-3：私の大学では「女子の会」をつくった。院に行く学生は確かに減っている。20代前半は早く結婚しておちつきたいと考えている模様。30代の先輩のようになりたくないと思っている。バリバリ働くイメージがない。サッサとやめたいという感じ。

Q4：雨嶋さんに。会社のなかでロールモデル的な存在だが、育児休暇を取得したことで、会社の中で何か変化はあったか？

A4：育児休暇を取得して4、5年たった。後輩で、取りたいという気持ちをもっている人もいるが、結果としては誰もとっていない。自分の育児休暇取得は、会社が厚生省の認証を取るのに役に立った。会社は今、WBに積極的に取り組んでいる。「朝メール」で仕事の予定を関係者に知らせている。仕事の締めくくりにもメールしている。皆で情報を共有している。会社のWBに対する意識はかわってきている。

Q5：以前、佐藤厚子さんらに来ていただいて話をしてもらった。あとでアンケートととったら「我々はもう、そういったことはよく知っている」というコメント。我々のほうが意識をかえないといけないのでは？若い世代は大丈夫かも。

Q6：佐藤厚子さんに。WBで苦労した点は？

A6：本人に相談せずに関係者に勧められるのは嫌。気を使いすぎないで欲しい。

## 2. 今後の課題

- ・集客方法の工夫、あるいは、セッション開催形態の工夫



### 3. 神戸大会女性会員カフェ報告と今後の作業予定

参加者 計 19 人



#### 【感想】

- ・楽しかったです。
- ・来年以降もぜひこうした企画を続けてほしいです。
- ・時間、もう少し長くても良いと思います。女性同士のみでもお話もしてみたかったです。
- ・また続けてください。
- ・もう少し時間があったら嬉しかったです。来年もぜひよろしくお願いいたします。
- ・楽しい時間をありがとうございました。もっと話したかった。
- ・とても楽しくお話が出来て、たくさんお話が聞けて良かったです。またぜひ参加したいです。
- ・もう少ししゃべりやすい環境づくりをがんばりたいと思った次第です。
- ・日常では聞けない貴重なお話をお聞きでき、とても有意義な時間でした。楽しかったです。

#### 【来年に向けての課題】

- ・事前の積極的なアピールが必要 HP や学会誌に報告を掲載させてもらう
- ・当日の飛び入りを見込んでおく必要あり 当日受付可にすると人数膨らむかも
- ・時間をもう少し長めにしてもよさそう
- ・カフェ 特別セッション の流れはよさそう

#### 4．神戸大会託児所報告

- ・今回は利用者が1家族のみ(子供は2人)
- ・初日と3日目の利用
- ・平日の開催であったため、就学児童の利用が困難
- ・会場と託児室が近かったことが利用者には好評



#### 【利用者の感想】

- ・学会の参加をどうしようか迷っていたが、子連れながら参加できて嬉しかった
- ・託児所にいらした保育士「他の学会では土日開催が多く、子供連れが多い」
- ・利用日時の指定は、プログラムが公表された後でないと難しい できれば、「利用するかしないか」の予約を先にし、その後、大会のできるだけ直前に、詳細な日時が指定できるとよい